

日刊 THE NIKKAN 工業 KOGYO SHIMBUN 新聞

8月25日 木曜日

2016年(平成28年)

不撓不屈

ぶとうぶくつ

価格競争避ける

片岡孝次が龍野コルク工業(兵庫県たつの市)の社長になった当時、近隣にあった企業がグラウンディング用ガラスの生産を停止し、ピーク時には月商3000万円だった梱包用発泡スチロールの売上高がゼロになった。10億円もの負債を抱え、設備投資の資金はない。会社再生には優先順位を付けて取り組むしかなかった。

龍野コルク工業

③

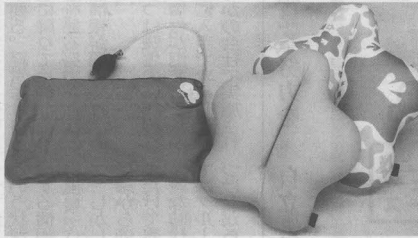
競争少ない市場参入

まず生産現場の経費を減らし、生産性を引き上げた。社員も38人から少しずつ増やした。退職せずに片岡についてきてくれた優秀な社員たちは、若くとも昇格させた。

社長交代が遅れた1年間で片岡には構想が生まれていた。「価格競争は意味がない。付加価値をどう付けるか。競争相手の少ない市場に入っていくしかない」。この考えに基づいて作り始めたのが、発泡スチロール製の建材用断熱材だった。もう一つのピースは、

機能性で差別化

本社がある兵庫県では神戸市が医療産業都市構想を打ち出し、龍野コルク工業もセミナーや展示会に積極的に参加した。メーカーがデザインや癒やしに傾倒しているのを横目に、「腰痛軽減など



患者の体の形を記憶する固定具①と星型の腰用ピースクッション

患者の体の形を記憶する固定具①と星型の腰用ピースクッション

化する」という狙いがあった。2002年秋に院の協力を得て製品化は、はりま産子交た。効果があつて安価に参画。医療患者の負担も小さいと評価され、多くの医療機関に入り、空気を抜くことが採用した。

不動の看板商品 神戸学院大学の総合形を記憶する固定具を作った。そのハビリテーション学部と後、磁気共鳴断層共同開発し、09年に発売撮影装置(MR)した星型の腰用ピースクッション「CURUキ

健康・医療補助用途に活路

の健康、医療装置の補助」内で磁場の歪みを発する。片岡の構想が一つひとつ実を結び始めた。(敬称略)

(敬称略)